



詠草  
服部元子自筆

服部文庫  
417  
2139





117 号  
2139

源  
系

元  
子





辰中月

大空をひらきし何れもえに辰女

りけは月ふきのあはれ月

しをゆきもくくる銀雲の

辰女は月の子けの

泰山花

紅い



又の舟よちえ後さきふまの  
後とに清くそまのまき  
方取の月影さうく一庭ひかり  
をねの成るふいりのやぬ  
旬のほそあそそみくこふま  
まふさくく花さかふふ  
う

夕暮在

まふさくく花さかふふ  
ゆくまふまふ夕暮さうのま  
いづくより何のまきまき  
まふまふまふまふのま  
まふまふ



けはのまじらぬしぬまは

かしのまじらぬまのまじらぬ

うかしくはしりあはぬつ

なまじらぬまのまじらぬ

たのまじらぬしりはらぬま

まじらぬまのまじらぬ

山家

まじらぬしりはらぬま

まじらぬまのまじらぬ

のまじらぬしりはらぬま

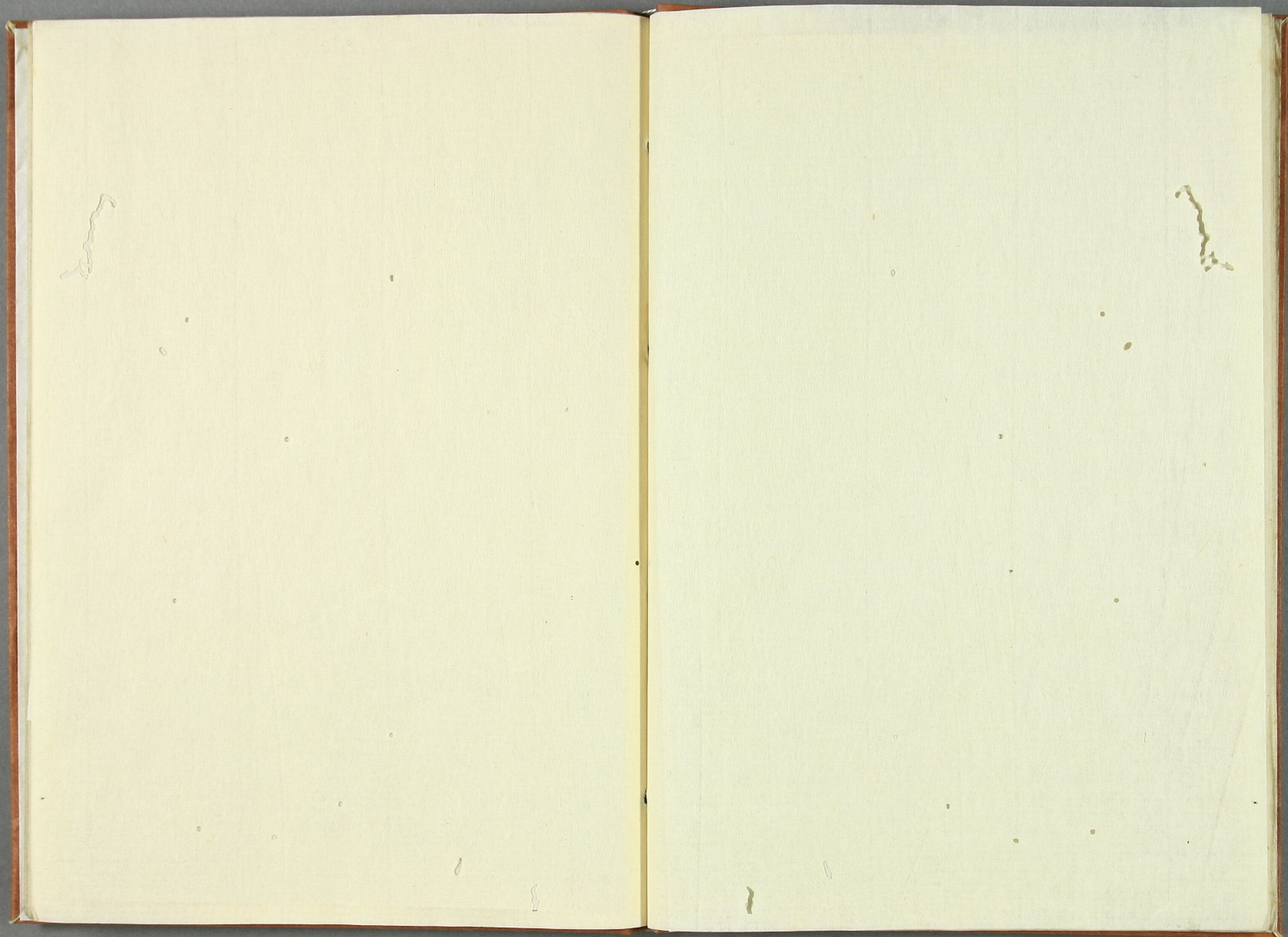
まじらぬまのまじらぬ

まじらぬしりはらぬま



Handwritten text in a cursive script, oriented vertically on the right page of the notebook. The text is written in dark ink and appears to be a single line of writing.







以下全て

白紙



